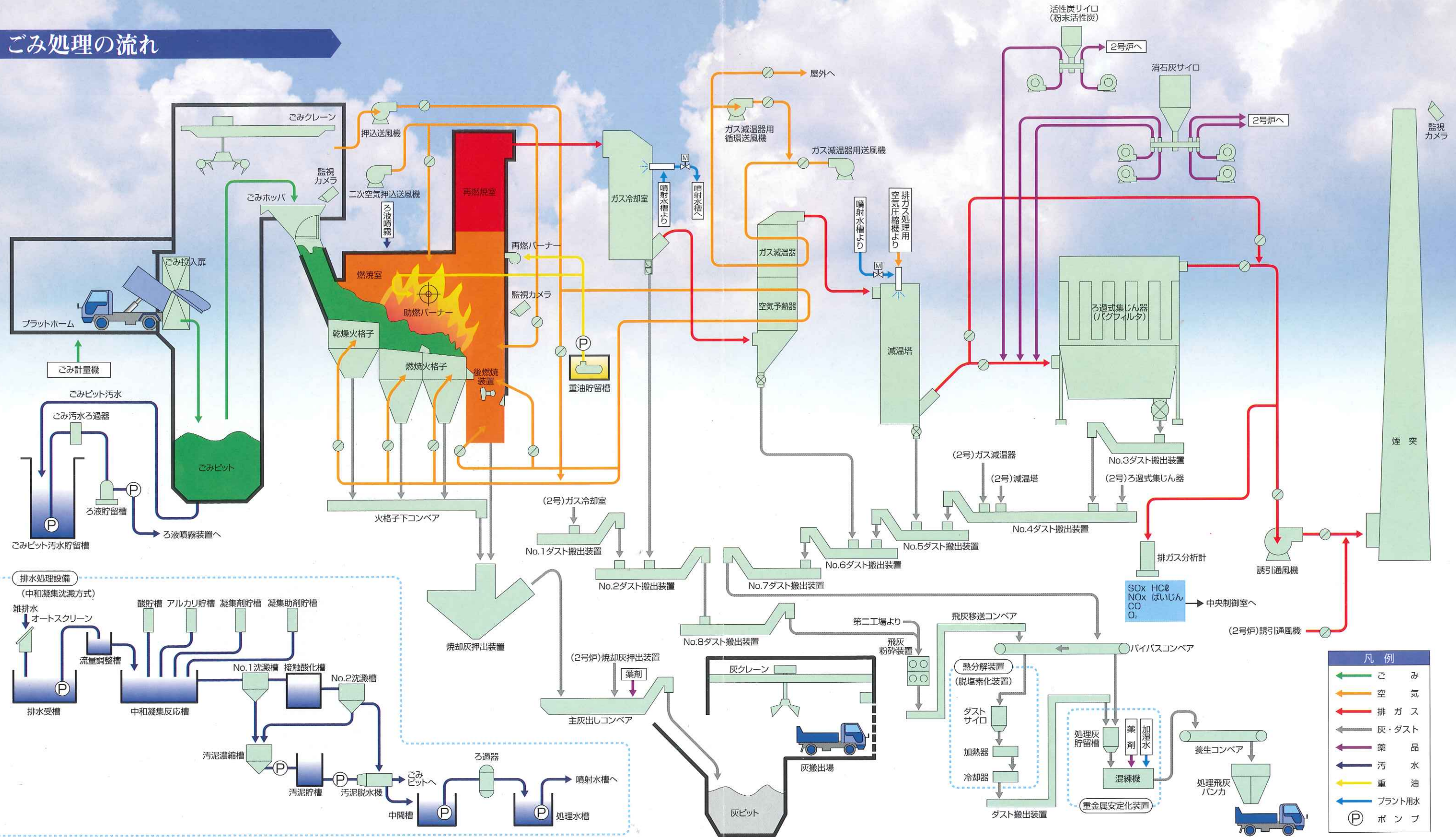


ごみ処理の流れ



ごみ投入

収集車で搬入されたごみは、ごみ計量機で計量され、ごみ投入扉よりごみピットへ投入されます。ごみピット内のごみは、ごみクレーンにより十分に攪拌した後ごみホッパに投入されます。

乾燥

投入されたごみは、自動的に炉内の乾燥火格子上に供給されます。乾燥火格子上的ごみは、階段状の火格子独特の動きによって、攪拌されながら自動的に燃焼火格子に送られます。乾燥火格子において、炉内の高温雰囲気による輻射熱や炉内高温燃焼ガスによる対流伝熱、火格子下部より吹き込まれる予熱空気によりごみを乾燥させます。

燃焼

乾燥したごみは、燃焼火格子上でさらに攪拌されながら、火格子より吹き込まれる予熱空気により勢よく、ほぼ灰になるまで燃焼されます。その後、後燃焼装置において、おき火燃焼を行い完全燃焼させます。

灰の処理

焼却灰は、火格子下コンベアにより焼却灰押出装置に落とされ、ここで冷却されて主灰出しコンベアに移送されます。主灰出しコンベア上で薬剤(キレート剤)を噴霧し、主灰中の重金属を安定化した後に灰ピットに移送貯留され、灰搬出トラックで搬出されます。また、ガス冷却室、空気予熱器、ガス減温器、減温塔、ろ過式集じん器で捕集された飛灰は、ダスト搬出装置で熱分解装置(脱塩素化装置)の加熱器に運ばれ、ここで脱塩素化され、その後冷却器にて冷却されます。冷却された飛灰は、ダスト搬出装置で重金属安定化装置の混練機に運ばれ、薬剤(キレート剤)で処理し、処理された飛灰は処理飛灰バンカに移送貯留され、灰搬出トラックで搬出されます。

排ガス処理

炉内では、ダイオキシン類の発生を抑制するため、850℃以上の高温で運転し、焼却炉内で発生した未燃ガスは再燃焼室において二次燃焼空気により完全燃焼されます。高温の排ガスは、ガス冷却室、空気予熱器、ガス減温器、減温塔にて冷却し、余熱で燃焼用空気を温めます。排ガス中の塩化水素は消石灰と反応し、飛灰とともにろ過式集じん器で除去されます。また、排ガス中のダイオキシン類は粉末活性炭に吸着させ、ろ過式集じん器で除去されます。

排水処理

ごみピット汚水はろ過した後ろ液噴霧装置にて焼却炉内に噴霧して高温酸化処理されます。洗車排水、床洗浄水等の雑排水は排水処理設備で中和凝集沈澱方式により浄化しプラント用水として再循環使用され、場外に放流することはありません。